

「聖なる神殿となる」

2019年02月11日

エフェソの信徒への手紙2章17節～22節 キリストはおいでになり、遠く離れているあなたがたにも、また、近くにいる人々にも、平和の福音を告げ知らせられました。それで、このキリストによってわたしたち両方の者が一つの霊に結ばれて、御父に近づくことができるのです。従って、あなたがたはもはや、外国人でも寄留者でもなく、聖なる民に属する者、神の家族であり、使徒や預言者という土台の上に建てられています。そのかなめ石はキリスト・イエス御自身であり、キリストにおいて、この建物全体は組み合わされて成長し、主における聖なる神殿となります。キリストにおいて、あなたがたも共に建てられ、霊の働きによって神の住まいとなるのです

イエス・キリストは神からこの世に遣わされ、遠く離れているあなたがたにも、近くにいる人々にも、平和の福音を告げ知らせられた。十字架の死によって、罪を赦し、神と共なるインマヌエルの恵みへと招き入れてくださった。この恵みは全ての人々に与えられた福音であるから、人と人の間にも平和が実現している。「それで、このキリストによってわたしたち両方の者が一つの霊に結ばれて、御父に近づくことができるのです。」隣人と共に、一つの霊に結ばれて、神の御元に近づくことができる。「従って、あなたがたはもはや、外国人でも寄留者でもなく、聖なる民に属する者、神の家族であり、使徒や預言者という土台の上に建てられています。」外国人や寄留者は何の確かさも保障もない、浮草のような存在である。儚い存在であったあなたがたは、今や、聖なる神に属する民、神の家族となった。神に命の根拠を置く確かな者に変えられたのである。神に属する民、神の家族の住む場所は、イエス・キリスト御自身がかなめ石となった建物で、使徒や預言者という土台の上に立てられたものである。この建物はキリストにおいて集められたキリスト者たちによって、建物全体を共に組み合わせ、成長し、主における聖なる神殿となる。キリストの霊が働く神の住まいに招かれ、そこに住む住民とされたのである。

「著者」は、「実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、規則と戒律ずくめの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、双方を御自分において一人の新しい人に造り上げて平和を実現し、十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ぼされました（エフェソ2:14～16）」と福音の核心を衝き、そこから、平和に与ったキリスト者たちが住む神殿、教会に言及している。その教会論はパウロの「キリストの体なる教会論」を忠実に継承している。

パウロは、Iコリント3章17節bで、「神の神殿は聖なるものだからです。あなたがたはその神殿なのです」と教会の神聖さを説き、Iコリント12章27節では、「あなたがたはキリストの体であり、また、一人一人はその部分です」と書き、その内実を、「つまり、一つの霊によって、わたしたちは、ユダヤ人であろうとギリシア人であろうと、奴隷であろうと自由な身分の者であろうと、皆一つの体となるために洗礼を受け、皆一つの霊をのませてもらったのです。体は、一つの部分ではなく、多くの部分から成っています」と説明している。「信仰義認論」、「教会論」はパウロの信仰を受け継いでいる。だからであろうか、エフェソ書の冒頭に、「神の御心によってキリスト・イエスの使徒とされたパウロから」と、パウロの弟子である自負を書いているように思える。